

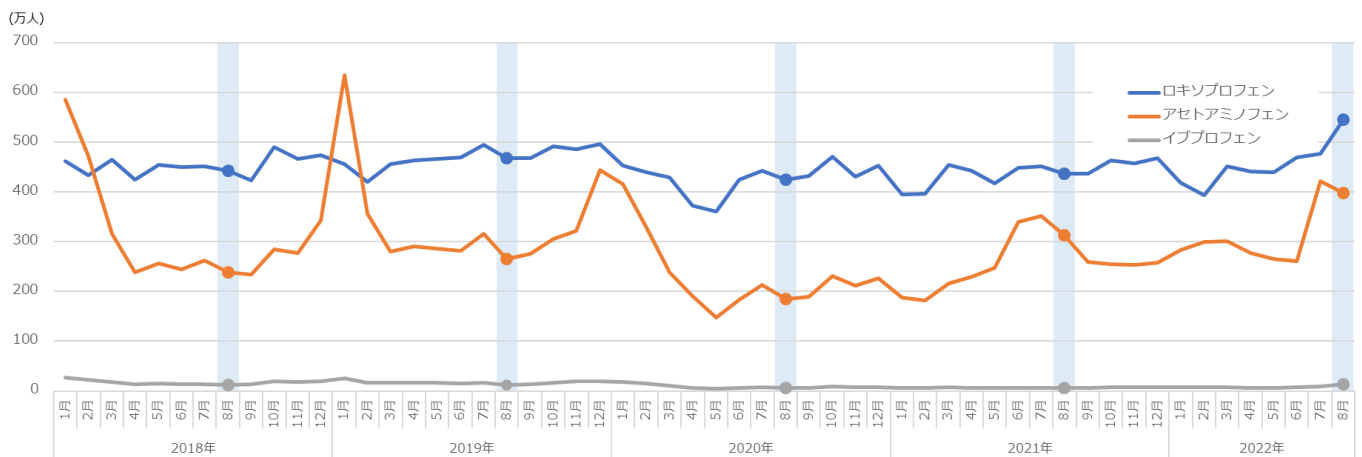
新型コロナウイルス第7波でロキソプロフェンの内服薬処方が増加 コロナ前を超える水準に

医療情報分析サービスを手がける株式会社インテージリアルワールド（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：佐藤 暢章）は、独自に運用する統合医療データベース Cross Fact の 2022 年 8 月データを基に、新型コロナウイルスの感染拡大がレセプトデータに与えた影響を調査・分析しました。

2022 年 7 月に第 7 波に入った新型コロナウイルスの新規感染者数は 8 月に入ってから増加を続け、日本における 1 日の新規感染者数はこれまでの最大であった約 10 万人を大きく上回り約 26 万人に達しました。7 月には解熱鎮痛剤の処方が急増し限定出荷となる製品も出ている状況でしたが、8 月の処方にはどのような影響が出ていたのでしょうか。前月に続き、解熱鎮痛剤としてよく用いられるアセトアミノフェン、イブプロフェン、ロキソプロフェンについて医療用医薬品市場の動向を見ていきます。

2022 年 8 月の月別推計患者数を見ると、これまで大きな変化がなかったロキソプロフェン、イブプロフェンの処方が伸びていることがわかります。イブプロフェンは約 13 万人とコロナ禍最大、ロキソプロフェンに関しては約 545 万人と 2018 年 1 月以降最も処方された月となりました。一方、7 月に大きく処方が伸びたアセトアミノフェンは限定出荷の影響もあったのか、やや患者数が減少（約 397 万人）いたしました。これまで新規感染者数の増加やワクチン接種に連動する形で大きな変動をする解熱鎮痛剤はアセトアミノフェンだけでしたが、第 7 波は他の解熱鎮痛剤にも大きな影響を与えたようです。

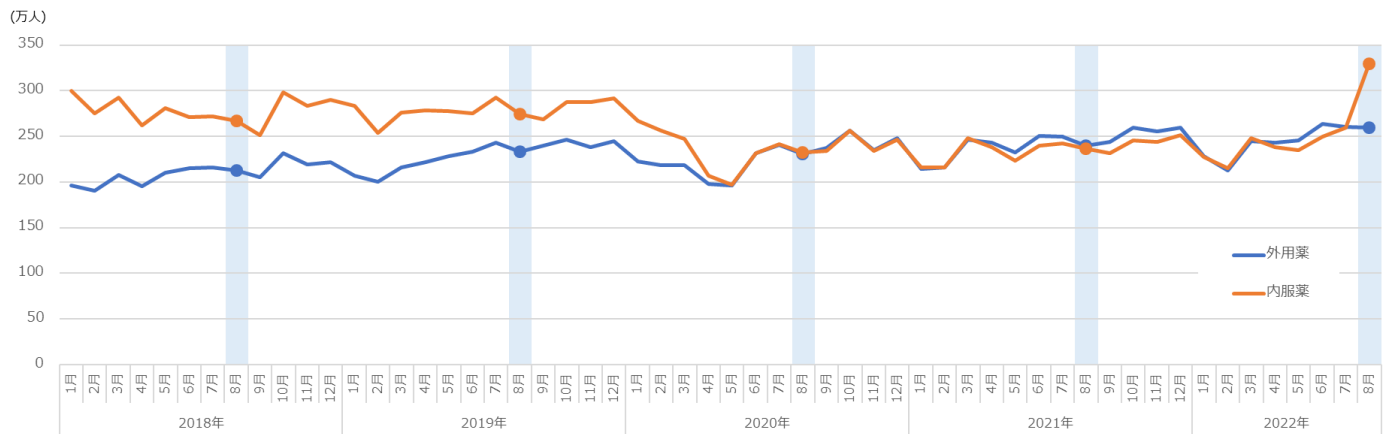
■ 解熱鎮痛剤の推計患者数推移



出典：「Cross Fact」（株式会社インテージリアルワールド）

処方変動の大きかったロキソプロフェンを内服薬と外用薬に分けて見てみると、内服薬が大きく伸びていることがわかります。コロナ禍前は内服薬処方患者が外用薬処方患者を上回っている状況が続いていましたが、コロナ禍でほぼ同水準となり、2022年7月まではその状況が続いていたようです。8月の内服薬は一般内科や耳鼻咽喉科、呼吸器内科での処方が急増しており、新型コロナウイルスを中心とした感染症に対する解熱鎮痛薬として処方されたことが示唆されます。

■ロキソプロフェンの推計患者数推移



出典：「Cross Fact」（株式会社インテージリアルワールド）

9月に入り新規感染者数は減少傾向に入っており、新型コロナウイルス感染者への解熱鎮痛剤処方 は落ち着いてくる ことが想定される一方、オミクロン株対応ワクチンが登場し、改めてワクチン接種に伴う解熱鎮痛剤処方の増加も想定 されます。

また、南半球のオーストラリアではインフルエンザの流行が例年より早く始まったこともあり、昨年も懸念されてい た新型コロナウイルスと季節性インフルエンザの同時流行も気になるところです。

インテージリアルワールドでは今後も様々な感染症の動きを医療用医薬品の「処方」で捉え、発信して参ります。

本件に関するお問い合わせ先

株式会社インテージリアルワールド 企画開発部 鹿島田

Eメール: pr-irw@intage.com Tel:03-5294-5990

株式会社インテージリアルワールド 会社概要

会社名 : 株式会社インテージリアルワールド

所在地 : 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 4-6 御茶ノ水ソラシティ 13 階

代表者 : 代表取締役社長 佐藤 暢章

設立日 : 2005 年 7 月 14 日

資本金 : 1 億 8,825 万円 (株式会社インテージヘルスケア 100%出資)

事業内容 :

株式会社インテージリアルワールド (旧社名 : (株)医療情報総合研究所) は、国内最大級の医療リアルワールドデータベースを運用するリーディングカンパニーです。設立以来、「医療消費者」視点を重視し培ってきた医療リアルワールドデータの知識や分析・加工技術を基に、マーケティングデータや研究用データを製薬企業や研究機関へ提供しています。2020 年 7 月、インテージグループ内ヘルスケアセグメント事業会社から医療リアルワールドデータを当社に集約。それらを活用して新たなソリューションを開発し、よりタイムリーに多様な職種の方々に直接お届けしていくことで、医療リアルワールド業界のファーストブランドを目指します。

URL : <https://www.intage-realworld.co.jp/>